



『親鸞聖人750回大遠忌法要』に向けて

札幌組組長 野 口 宗 英

平素より、組運営に特段のご配慮賜っておりますこと深くお礼申し上げます。

組の活動の中心となっています基幹運動も18年度が4年間最後の年でもあり、現執行部の任期最後の年度であります。17年度は組内も種々な課題のなかで進んできました。紆余曲折がありながらも皆様のご理解とご協力にあらためてお礼申し上げます。

さて、宗門も2005（平成17）年御正忌報恩講初日1月9日に即如門主より『親鸞聖人750回大遠忌についての消息』が発表され、2011（平成23）年4月より2012（平成24）年1月まで『親鸞聖人750回大遠忌法要』が修行されることが治定されました。また、法要の宗門長期振興計画の概要・推進費収支計画・収支計画概要が発表されております。ご消息を中心に振興計画が示されており、基本的な考え方「新たな始まり」～明日の宗門の基盤作り～、二つの目標、15の重点項目、27の推進事項がありますが私個人としてこれはというものは感じられませんでした。推進費収支計画は260億円と莫大の金額であり収入の9割以上に相当する240億円が一般寺院懇志・直屬寺院懇志・特別懇志となっているのが現状であります。

ご消息にもありますが布教や儀礼と生活とのあいだに隔たりが大きくなり、寺院の活動には門信徒が参加しにくく、また急激な人口の移動や世代の交代にも対応が困難になっており寺院の護持運営が厳しくなりつつある今、本当に260億円という金額が妥当なのかのおもいもあります。今回、皆様もご承知のように札幌組には146,887,000円の懇志依頼が昨17年9月にありました。教区全体では749,740,000円の依頼額で、札幌組はそのうちの19%を占めており、これは組においてもかなり大きな数字であります。

その後、組に持ち帰り三回の協議会、合同ブロック会議を開催して検討をしていただき、11月23日の臨時組会で報告をいたしましたこととあります。

本年1月に各寺院へ本山より懇志依頼状が送付されていますがよろしく願いいたします。宗門へそれぞれのおもいがあることでしょう。しかし、このたびの法要を機縁として人々の悩みや思いを受け止め共有し、組内の仲間意識の高揚と和をより一層認識し組の運営にご協力をお願い申し上げます。

臨時組会が開催される

昨年の11月23日、臨時組会が出席者数32名（委任状36名）で札幌別院を会場に開催されました。組会に先立って宣誓式があり、誓いの言葉を浄光寺門徒、中田直氏がつとめて下さり、議長には覚王寺ご住職、内平義和氏が選出され議事に入りました。今回の臨時組会では、長年の懸案事項であった「組特別会計の運用方法」について審議が行われ、原案通り可決されました。これにより、次年度から特別会計の大部分は各寺院に還付されることになり、それに伴い、現行の組費についても19年度から見直されることになりました。また、執行部から宗祖750回大遠忌札幌組懇志依頼額について報告説明があり、臨時組会は30分ほどで終了いたしました。



組基推委の動き

青少年部・僧侶部

2005年度 札幌組僧侶部・青少年部合同研修会 が開催されました！

去る12月17日（土）教化センター札幌別院1階ホールに於いて、札幌市立藻岩中学校校長 豊田裕而氏をお迎えし、「最近の中学生から見えてくる事」と題して、2時間30分、休憩もとらず通して、熱のこもった講義を21ヶ寺24名で聴講いたしました。特に「キレル」子どもに、先生は、突然「キレル」訳ではなく、その裏にあると思われる、最近の親は、子どもの事が見えなくなる事を通して、解決に向けてお話し下さいました。とりわけ家庭内の教育力の回復の重要性を強く訴えておりました。



門信徒部

総代研修会を開催

平成17年11月22日札幌組門徒総代研修会が札幌後楽園ホテルにて開催されました。午後4時30分より開会式、勤行、札幌組組長、総代会会長の挨拶があり、研修講義に入りました。ご講師には本願寺勤学中西智海師による「生きる姿勢としての浄土真宗」の講義に出席者は真剣に耳を傾けていました。

19ヶ寺の住職・総代74名が出席し、6時45分研修会は終了しました。7時より同所に於いて懇親会が催され、各寺紹介・カラオケなどお互いに親睦を深めることが出来ました。



婦人部

平成17年度 札幌組仏教婦人会連盟 一泊研修会報告

時 平成17年12月12日（月）から13日（火）
 会 場 定山溪ビューホテル
 講 師 本願寺派司教 上川南組 正光寺住職 北塔 光昇氏
 テーマ 『いのち』

毎年恒例の「札幌組仏教婦人会連盟一泊研修会」が12月12日（月）から13日（火）にかけて、定山溪ビューホテルを会場に、22ヶ寺・113名の各寺仏婦会員の参加により開催されました。

今年度の札幌組基推委の年間テーマであります、『いのち』を学びのテーマとして、講師に本願寺派司教 上川南組 正光寺住職 北塔 光昇氏にご出講頂き研修致しました。

廣仏偈のお勤めの始まり、竹澤札幌組副組長のご挨拶を戴き、ご講師の北塔先生の『いのち』について仏教でのとらえ方を、2時間半にわたり講演や質問に答えていただきました。講演は一般常識での『いのち』と仏教でとらえる『いのち』の理解に皆様戸惑っておられましたが後半の講演でわかりやすく解説をいただき、日頃お寺の本堂などでの法話と違う研修に良いご縁と喜ばせていただきました。

一日目の研修が終わり、113人での大懇親会で、おいしい食事と、抽選会・カラオケ（おひねりが飛び交い、踊る等もりあがっていました）、最後は北海道うたにより踊りの輪をつくり、楽しい一時が過ごされました。

二日目は、その後10人ほどのグループに分かれ、分科会にて今日のテーマの『いのち』や各寺の仏婦活動について話し合われました。

まとめの講義をいただき、2日間にわたる研修会を終了致しました。

参加者の方々の、分科会形式をとり全員が参加している研修となった、また研修内容を皆で話し合うことでより理解が深まったとの声も聞かれました。〈有り難うございました〉の言葉を頂き、担当の婦人部としても嬉しいことでありました。今後も参加者の方々とより良い研修が出来ますように取り組んでいきたいと思っております。



僧侶部

「僧侶研修会」を開催

1月23日（月）

今年度、第3回目の「僧侶研修会」が札幌全日空ホテルを会場に23ヶ寺31名の参加を頂き、開催されました。



このたびの御講師には、教区勸式指導員で私たちの組内のご住職である、上山知現師にお願いをし、昨年6月ご本山より椅子席規範の制定を受け、法式規範別冊が刊行されましたが、今回これをもとに本堂内陣における荘厳・作法など法式全般にわたっての研修の機会にめぐまれました。また研修会終了後、「札幌組新年会」も開催されました。

乗善寺開教90年・寺号公称60周年・ 仏教婦人会結成80周年 慶讃法要

藤田善昭

当寺は大正4年に白石脱教所として開教以来、平成17年で丁度90年を迎えました。

節目の年でもあり、100年までは待てないという御門徒さんの強い要望もあって、寺号公称が昭和18年に認可され、又、仏教婦人会も昭和4年に結成されている事から三大慶讃法要として去る平成17年10月22日、報恩講の初日にお勤めをさせていただきました。

仏徳讃嘆はもちろん、先人のご苦勞を偲び、そのおもいに報い、浄土真宗の教えが子や孫に伝えられていく事を願いながらの法要でした。

90年の歴史をたどれば数え切れないほどの事業や行事が行われてきましたが、その間、組内の皆様のご支援やご厚誼を頂いてきたからこそ迎えられたものと紙面をお借りしてあらためて感謝を申し上げますこととあります。

幾多の困難な出来事もあった様ですが、御門徒の皆様のお念仏で結ばれた強い心で一つ一つ成就されている事を振り返りますと、信仰の力をあらためて思い知らされた気がいたします。

法要も最初は大げさな事には考えておりませんでした。日を経るにつれて御門徒さんの法要にかける意気込みも高揚し、又、安楽寺ご住職はじめ、お世話を下さいました御法中のかたがたのご協力があって、御門徒の皆さんが喜んでもらえる法要をお勤めできましたことは仏祖のご加護のおかげと有り難く思っております。

今後は100年に向けて更に寺門の発展に精進していくこととありますが、組内の皆様には今後とも何かとお世話になるかと存じますのでよろしくご教導いただきます様、お願い申し上げます。

合掌



う ち の 坊 守 さ ん

仏教の事に関しては全く素人だった私でしたが、昭和31年当時小樽別院輪番でございました横湯通之先生のお世話を頂き、若竹保育園に5年間、そして引き続き小樽幼稚園に6年勤務をさせて頂きました。

年間の行事がすべて仏式で行なわれておりました。入園式・花まつり・宗祖聖人降誕会・報恩講等々…私にとってはその全てが驚きと感動でありました。

当時小樽別院に於きましては、納骨堂、会館、幼稚園等の改築事業があり、若い職員さん万も大勢お勤めされておりました。

たまたまその中の一人が今の主人であります。この御縁を結ばせて頂いたのも横湯先生で、ご媒酌の労をお願いさせて頂いた事でありました。

昭和45年に当時の前任職が倒れられ、もどって来ましたがその頃は大変田舎で、これから先どうなるのか不安と心配ばかりでしたが、幸いにして前任職・坊守を始め門信徒の皆様の良いお育てと、ご協力を頂いて何とか今日まで過ごさせて頂きました。これもひとえに仏祖のご加護と感謝させて頂き喜ばさせて頂いております。

これからも皆様宜しくお願い致します。

合掌



清勝寺坊守

岡 芳 子

ニューフェイス

円静寺 藤原 健彦

札幌市西区二十四軒・円静寺にて副住職を務めさせて頂いております藤原健彦と申します。いつも自坊がお世話になっております。

私が得度を受けさせて頂いて以来、各寺院の皆様方には、既に数年に亘って大変お世話になっておりました身ではございますが、昨年四月に自坊に正式入寺させて頂いたご縁、並びに、同年十月に正信会へ入会させて頂いたご縁を機に、当該面にてあらためての御挨拶をさせて頂ける事となりました。

法務等におきましては、まだまだ己という人間の未熟さを痛感し続ける毎日ですが、一日でも早く札幌組の皆様と共に歩ませて頂くに相応しい身となれるよう、さらなる努力を続けて参りたいと思っておりますので、自坊共々、何卒、ご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。



ちょっと読んでみようか……

この一冊

「埋み火」

本願寺司教、教学伝道研究センター常任研究員、龍谷大学講師、中央仏教学院講師、教善寺住職である著者が平成15年7月15日、最愛の息子を亡くす。

同年2月にご子息得度を受け、また、ご門徒と力を合わせて本堂を新築、これでまあ安泰だ、と喜んだ矢先の死であった。

定価 800円

森田 真円 著作 発行所 本願寺出版社

本書は、著者の講演、法話、執筆等を纏めたもの法話集。

「涙というものは、これほど出るものかと思いましたが、これから先、私の人生において心の底から笑うことはもうないでしょう。もうちょっと押したら、倒れそうです。えらそうに言っていますが…

ご子息の通夜に弔問にきて下さるご門徒の皆様にお礼を申しながら、あることに気づかされる。それは「この万もお子さんを亡くしておられる、このかたもお子さんを亡くしておられる」と言うことでした。

いままでそれぞれのかたのお葬儀をさせていただいてき

たが「どれほどその方のお気持ち分かって来ただろうか」ということを思わずにはおれません。と著者は告白いたします。

さらに、家族に先立たれた方、逆縁にあわれたかたがたに

「俱会一処」…「つらいでしょ、寂しいでしょう、でもやがてお浄土で会う世界があるんですよ」と言って来ました。

しかし、少し違うのではないかと思うようになりました。…それは…とお味いを語られる。(それでも阿弥陀さまがいてくださるより)



ちょっと読んでみようか……

この一冊

「がんばらない」

医師と患者の心のかよい、患者と家族のあたたかい絆、「がんばらない」…

誰もがその前に立ちつくす。なんと勇気のある言葉。

定価 1680円

鎌田 實 著作 発行所 集英社

「弱気になるな！がんばれ！」と家族の誰の口からも出なかった。これ以上生きてほしいと願うほうが、どれだけ残酷なことかわかっていたのだ。ぼくは「がんばらない、がんばれない。これまでよくがんばってきた、もうがんばらなくていいよ、きみはきみのままでいいんだよ」と胸のうちで思った。

父親が聞く。「いいのこすことはないか」

「今日1日どうやって生きようかと、それだけで精いっぱいだ。今更何を…現実を知ってがんばってきたのだから、悔いがないがやり残したことはいっぱいあるさ。海外旅行もしたかったし、結婚して俺の子どもほしかった。…もっと生きたい…いってもきりがないことだ。これが俺の運命だったのだ。全精力を病気との闘いにかけてたので思い残すことはない」と答えた。(ある青年の死より)

21世紀の人類にとって最も大きな問題は情報長寿社会のなかの、人間のさびしさではないだろうか。

障害をもって苦しんでいる人、脳卒中や心筋梗塞で倒れた人、糖尿病で治療を受けている人、がんの告知を受けて悲しみのなかにいる人、がんとの闘いに希望を見出そうとしている人、がんとの闘いに疲れたひと、生きている意味が見えなくなってしまう人、に、「がんばらない」の主人公たちに会ってほしいです。

物やお金や情報よりも大切なものもあるはず。かわいた心に潤いを見出す一冊。



フリーコラム

聞くことのむつかしさ

打本 顕 真

ある市民団体が主催する「傾聴技術研修会」に行ってきました。近年、傾聴ボランティア活動が注目されるようになり、「傾聴」ということに興味があったからです。

三十代の頃、カウンセリングの研修会に参加していました。真宗カウンセリングを提唱していた方もありましたし、私の恩師もそれに関わっていましたが、私は別のカウンセラー養成研修会に参加していました。

カウンセリングに興味はありましたが、何故か、のめり込めないものを感じていたので、恩師の関わっていた真宗カウンセリングの人びとは交わらなかったのだと思います。カウンセリングと一言と言っても、さまざまな考え方があります。主流は、やはり非指示的な手法を探るカウンセリングです。

答えは相談者みずからが発見していくように、カウンセラーは相談者の心の鏡のような存在になっていくのです。悩みをうち明けながら、相談者は無意識のうちに答えをちゃんともっていると言われていました。その答えを引き出す役割が、カウンセラーと言う訳です。

ただ私がカウンセリングから離れたのには訳がありました。カウンセリングは、苦悩の本質的な解決にはならないのではないかと、疑問をもったからでした。

傾聴技術研修会に行って、また同じことを感じてしまいました。

「聴いてあげれば相手は楽になるのです」

「聴いてあげる」ということばに、私は引っかけられてしまいました。

「聴いてあげるものだろうか？」

頭の中で、渦のように疑問がふくらんでいきました。産業カウンセラーをしているというご講師でしたが、やっぱり“嘘っぽさ”を感じてしまいました。

「仏法聴聞」というのは、やはり何といても深いものがあると思わずにいられませんでした。改めて、聴聞のむづかしさ、そして、ありがたさ、尊さをかみしめたことでした。